会員近況

マンボウとの出会い

吉井静子

第四十一回展では思いがけなく大きな中尾賞を頂き本当に有難うございました。私は高校野球聖地の甲子園球場と名神高速の起点でもある甲子園に住んでおります。その住宅街の中に夏には絵に描いたような畑一面きれいな紫色のシソ作りをして、冬は緑一面の青ネギを作って生活をしています。

若いころには余り出掛けませんでしたが絵が好きなので、時には美術館に主人とよく出掛けておりました。ある日パウル・クレーの展覧会が京都で開かれており入ってみるととても感動し、このような絵を描きたいと思うようになりました。しばらくすると大阪にも同じようなクレーの展覧会が開かれたので見に行くと忘れられなくなり、その頃から鯉を描くようになり、鯉を追求しようと思う様になりました。

そして新日美に入会させていただきました。今では年に一度の町内会の一泊旅行と農作業と絵を描く楽しみで毎日が過ぎています。又、水族館が好きで海遊館にはよく主人と行きます。

鯉ではなくマンボウに出会って、こんな大きな身体なのにどんな小さな魚に触れたり突かれても生きられないため、イカのような柔らかい魚としか一緒にいられません。マンボウは世界最大の硬骨魚で全長三・三m、体重は二・三トンにもなる巨大魚です。ユーモラスな外見に反して、神経質な魚で時々身体を水平にして浮かんでいる姿が太陽に似ている。また他の魚のように器用に方向転換することが苦手で何かに驚いたり遊泳のバランスを崩したりすると水槽の側面に衝突してすぐ傷だらけになる。それで水族館では、柔らかいシートをつるしてある。

私は愛くるしいマンボウに魅せられて描き続けています。こんなマンボウ好きな私ですが今後ともよろしくお願い致します。

子どもと育つ私

福井妙子

地域の中で小さいお子さんがおられる家庭で安全安心に子育て出来る様にお手伝いしたいという思いから、二十年前、四十代・五十代の主婦八名で『おもちゃライブラリーばばーる』という名称で、遊び場ふれあいの場を立ち上げました。名称は絵本から頂きました。

木のおもちゃ、手作りおもちゃ、絵本にこだわり子供達が見て、触って手や体を使って遊ぶ喜びを知り、おもちゃを仲立ちにして友達と一緒に仲良く遊ぶを目標にしています。私たちの考えに賛同して下さる方、友人、知人に協力頂き会場代、おもちゃの購入費用を作りました。チラシを配りポスターを貼り、月二回開催、始は子供達は来てくれるだろうかと不安が一杯でした。

チラシを見て友達を連れて来てくれたり、ボツボツ参加者も増え、あそこに行けば珍しいおもちゃがあると口コミで広がり、今では二カ月から三才くらいまでの親子が三十組から三十五組位の参加です。

私達は子育てに悩む(離乳食のこと、夜泣きのことハイハイ、寝返りのこと)お母さんに優しい言葉をかけ聞いてあげるだけです。保健所の検診受けようねとアドバイスするくらいです。子育ては完ぺきを求めない、ゆっくり進むこと、現代の子育ては忙しいですかちょっとした手間をかけることで子供が豊かな育ちになると思います。時には絵本で親子が救われることも・・・兄弟姉妹の少ない今、ここでふれあいの経験をして頂きたいと思っています。そして両親の仲が良いことが子育てする上で一番大切なことなんだという事を若いお母さんに知って貰う事だと思います。そして二十年後あの時が一番大変だったけれど一番幸せだったなと後で振り返る事が出来るお母さんなってほしいのです。

私は自分の人生で今現在いる位置を客観的にとらえ、小さい子のキラキラした瞳の輝きを頂き若返っている日々です。よし頑張ろうと力が湧いてきます。十年前私達のことを市の社会福祉協議会が認めて下さって会場費の助成を受けることが出来る様になりました。

小学校で色鉛筆画を教える

佐藤　昭

私が所属する保坂宏主宰色鉛筆画の会 楽描きクラブ」では毎月四回の一般生徒の教室の他、小学校での色鉛筆画教室を行っています。これは市立小学校の依頼で土曜休日を利用して絵画に興味のある生徒を集めボランティアで色鉛筆画の指導を行っています。今年で三年目を迎える教室は、年々受講生が増し現在三十人を超えています。絵画は小さい頃から興味を持ち小学生から基礎を学び最初は色鉛筆画でもいずれは色々なジャンルの絵画に興味を示し育っていくそんな未来の夢を持ちながら先生をはじめ現在六人のスタッフで指導を行っています。

先生の方針は描くモチーフを強制するのではなく、自分の好きなモチーフを持ち寄って楽しく描くことを目的として、まず絵を描くことが好きになる様にすることが第一歩と考えています。皆、楽しそうに夢中になり生き生き、のびのびに夢中になっている生徒もいて将来性を感じさせます。とてもうれしい限りです。どこの家庭にもある色鉛筆は手軽に扱え、初めて絵を習う小学生にも使いやすい画材だと思います。私達は色鉛筆という画材を使い一人でも多く将来色々なジャンルの絵画に興味を持ち活躍していく小学生を育てていくことを希望し、この絵画教室を続けていきたいと思っています。

才能のある子供だけを育てるのではなく才能のある子供に育てる保坂先生の教育姿勢に同感し協力させて頂いております。ただ限られた時間の中で十分な成果を得ることは難しいかもしれませんが六年生を卒業していく生徒の中に将来美術界で活躍する人が現れることを夢と希望をもって頑張りたいと思っています。それには私たち自身が一層の努力と勉強が必要であると思います。

ここで話は変わりますが、私が何故色鉛筆画を描く様になったのかを少し書かせて頂きます。私が新日美にお世話になって三年目を迎えました。初年度は絵画部門の色鉛筆画でお世話になり、二年目は絵画・工芸両部門でお世話になりました。私は元々工芸に携わっておりましたが両手の故障で両手首の手術を受け長い間恐怖心に駆られ遠ざかっていました。しかしある日リハビリにも最適と思われる色鉛筆画と出会い、少々の経験しかなかった私にとって保坂先生の描く癒の絵はまるで夢の世界の絵に向かっている様子は私たちスタッフにとっても一層の励みになっています。現在は三年生から六年生の指導に当たっていますが皆、明るく楽しそうに夢中で絵に向かっています。中には掃除が始まっても絵